

## 教員養成大学における学生へのキャリア形成支援

原田 悦子

家政教育講座

### Career development support for students at teacher training colleges

Etsuko HARADA

*Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan*

Keywords : 教員養成大学 キャリア形成 就職活動

本稿は、家政教育講座に在籍する学生のキャリア形成を支援するために行った活動の内容と学生の振り返りを報告することを目的とする。

筆者は、小・中学校教員を経た実務家教員である。現職中は管理職として、教員の資質向上に努め、定年退職後は、拠点校指導員として2名の初任者の指導を行った。同時に愛知教育大学で非常勤講師として、家庭科専修・専攻の学生をはじめ、他専修・専攻の学生を対象とした初等家庭科教育法を担当した。自分の母校ではあるが、現在の学生の気質にとまどうことが多いスタートであった。

「先生、このクラスの半分くらいは、教員になろうと思ってこの大学にきていないから、模擬授業もやる気がないと思うよ」と、学生から声をかけられたからである。教員養成大学で家庭科教育法の授業を構想した時、最初に思ったことは、実践的な授業力を育成し、学校現場に送りだしたいということである。そのためには学習指導案をきちんと書かせ、受講者全員に模擬授業を経験させたいと考えた。模擬授業を行うためには、学習指導要領や教材を理解する必要がある。そこで、初等家庭科教育法では、前半で学習指導要領改訂のポイント、教科書の構成・内容を押さえ、後半で学習指導案を作成し模擬授業を行った。前述の学生の言葉は、模擬授業を終わった直後のものであった。そのため、次年度からは、第1回目の授業時に、自己紹介欄に卒業後の進路を書かせ、教職に対する学生の意識を把握するようにした。

「最初から教員になる気はない」「最初は教員になりたくて大学に入ったが、自分には能力がないと思ってあきらめた」「学校はブラックだという情報が多く教員になろうか迷っている」「教員養成大学に入ったが、何になろうかまだ決まっていない」等、積極的に教員になろうとする学生の方が少ないと感じる。

コロナ下で今まで行われてきた人との交流が希薄に

なったことも原因であろうが、学生は限定された交友関係内やインターネット・各種メディアからの情報など、偏った情報でいろいろなことを判断しているように感じる。そこで、家政教育講座の学生に向けて、実際に学校現場で働く先輩や就職活動（教員採用試験・公務員試験等）に臨んだ先輩から直接体験談を聞く場を設定することにした。

本稿を通して、教員養成大学でのキャリア形成支援のために、具体的な体験談を聞く機会を設定するよさを示していきたい。

#### I 2022年度家政教育講座教員採用試験対策実施案 1 経緯

4月の就職支援委員会で教員採用試験対策補助実施要項が出された。それを受け、家政教育講座の講座会議で担当者から「各講座が実施する教員作用試験面接指導等」をどのように実施したらよいかという議題が出された。前年まで、家政教育講座では、教員採用試験一次試験直後に希望する4年生を対象に行われていた。具体的には学校現場の管理職にお願いをし、面接の際の心得等を話していただいていた。今年度から単なる教員採用試験対策だけでなく、教員志望の学生を増やすことも視野に入れた対策を練っていきたく提案し、賛同を得られた。それは教員採用試験対策補助実施要項に次のような文言があったからである。

(略) 4年生対象に1回および下級学年対象に5回とする。下級学年には、5月以降、(略)各専攻等で専攻の特性に基づく教職の強み、校種の違い、教採対策方法等を外部講師等を招き、指導をするものとする。

## 2 目的と内容

- ・1年生から毎年定期的に教員の魅力を紹介する場を設け、教員採用試験に向けてのモチベーションを高める。
- ・学校現場で活躍するさまざまな年代の本大学家政教育講座の卒業生を招聘し、教員養成大学で学ぶ意義を再確認する。
- ・1年生には、学校現場に慣れてきた教員経験3年目くらいの卒業生の話聞く場を設け、学校現場の状況と思いを伝えてもらい、実際に学校現場で働くことの困り感と充実感を知らせる。
- ・2年生には、学校現場でミドルリーダーとして活躍している卒業生の話聞く場を設け、「成長し、学び続ける教員」の姿を伝える。
- ・3年生には、後期教育実習事前指導時に、教員採用試験を受けた4年生から教育実習の概要と実習後に教員志望に至った思いを語ってもらい、教育実習の目的を明確にする。
- ・3年生には、後期教育実習事後指導と合わせて、教員採用試験に合格した4年生に、自分自身の経験談を話してもらい、教員採用試験に向けての今後の見通しをもたせる。
- ・3年生には、未来の姿として、管理職として活躍している卒業生の話聞く場を設け、卒業後のライフスタイルを考えるきっかけとする。
- ・4年生には、教育実習事後指導と合わせて、学校現場の管理職経験者を招き、教員採用試験に臨む際の心がまえを伝え、見通しと安心感を与える。

## 3 実施計画

### (1) 実施計画

下記のような実施計画を立てたが、今年度は初めての試みということで、実際は(2)のように実施した。

1年	8月中旬 ※行事なし週間	教員経験3年目
2年	8月中旬 ※行事なし週間	教員経験10年以上のミドルリーダー
3年	8月中旬 ※行事なし週間	学校現場の管理職
	8月下旬 ※教育実習事前指導時	教員採用試験を受けた直後の4年生
3年	11月中旬 ※教育実習事後指導時	教員採用試験に合格した4年生
	6月教育実習事後指導時	学校現場の管理職経験者

### (2) 2022年度の実実施計画

本来は、1年時、2年時、3年時、4年時と、毎年積み上げていくものを、今年度は初年度なので、1年生から4年生まで合同で行い、来年度以降は、随時単学年で行う予定である。

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| ①4年生教員採用試験対策講座<br>(前期教育実習事後指導の前に実施)  | ・6月29日(水) 13:20~14:20<br>・美・技・家棟3F 306教室<br>・講師 元公立中学校教頭  |
| ②全学年合同キャリア形成研修講座                     | ・8月10日(水) 9:30~11:30<br>・第二共通棟411教室<br>・講師 20代教職2年目の教員<br>30代ミドルリーダーの教員<br>50代管理職の教員  |
| ③3年生教員採用試験対策講座①<br>(後期教育実習事前指導の前に実施) | ・8月24日(水) 9:10~9:30<br>・第一共通棟303教室<br>・講師 家政教育講座4年生   |
| ④3年生教員採用試験対策講座②<br>(後期教育実習事後指導の前に実施) | ・11月16日(水) 13:20~14:20<br>・美・技・家棟3F 306教室<br>・講師 愛知県小学校教員合格 4年生<br>名古屋市小学校教員合格 4年生<br>愛知県中学校家庭科合格 4年生<br>(初等課程在籍)<br>愛知県中学校家庭科合格 4年生<br>(中等課程在籍)<br>愛知県内公務員合格 4年生 |

## II 4年生教員採用試験対策講座

### 1 講師について

元公立中学校教頭で、現在本学家政教育講座非常勤講師として初等家庭科教育法、中等家庭科教育法を担当しているA氏に講師を依頼した。家政教育講座の卒業生が、中学生時代に家庭科を覚えてもらい将来自分も家庭科教員になりたいと思うきっかけとなった方である。教頭として学校全体を温かく見守り、現役最後の年も新しい授業づくりに挑戦するなど、教職に対して熱い情熱を持っている。現役時代は教員採用試験の面接業務に携わったこともあり、女性管理職ならではの多様な視点で話をしてくださった。

### 2 講話の概要について

- ・昨年度の採用試験に合格した講師経験者の話
- ・二人一組で教員志望の理由を話す面接練習
- ・学校現場ではどんな人材がほしいか

- ・白いブラウスの下に濃い色のタンクトップはダメ
- ・面接官の目を見て、笑顔でゆっくり話す
- ・答えられない場合は、知ったかぶりをせず、素直に「わかりません。勉強しておきます」と答えると良い
- ・事前に会場校の下見をすると良い

最後に、「面接官をしていると、話しているうちに、だいたいその人となりがわかってくる。普段の授業や模擬授業の様子を見ていて、ここにいる全員が、一緒に働きたいと思える人たちだから、自信をもって教員採用試験に臨んでください」と、エールを送ってくださった。

### Ⅲ 全学年合同キャリア形成研修講座

#### 1 講話1「教員採用試験対策、新任教員として」

##### (1) 講師について

B氏は、公立小学校に勤務し、現在2年目である。1年目は5年担任、2年目は6年担任で、家庭科の授業も担当している。卒業研究論文は、「さまざまな年代における教員のワーク・ライフ・バランス」であった。

##### (2) 講話の概要について

B氏には、教員を目指した時期、きっかけ、教員採用試験に向けてのアドバイス、実際に教員になって思ったこと、負の部分も包み隠さず、後輩が教員になりたいと思う話をしてほしいと依頼した。

以下は、B氏作成のパワーポイントの抜粋である。B氏は、中学時代、大学時代、現在の写真をたくさん活用し、明るく日々の生活を語ってくれた。

「卒業したら遊びにいけなと思っていただけ、長期の休みは旅行に行行ってリフレッシュしています。」と、笑顔でしめくくってくださった。

#### 教員採用試験について①

- ・勉強はいつから  
→本格的には3年生の3月から【3年生の11月から少しずつ】
- ・対策講座について  
→キャリア支援、春休みの対策講座、小論文対策講座
- ・おすすめの参考書（注意点）  
→全国版 教職教養・小学校全科の過去問【時事通信社】  
愛知県の過去問【共同出版】  
教職教養、小学校全科の赤（要点）と青（演習）【時事通信社】  
これだけは覚える教職教養・小学校全科【成美堂出版】

---

#### 1年目

- ・子供との出会い
- ・初任者研修(県・西三・市)
- ・研究授業
- ・自然学習

#### 2年目

- ・持ち上がりで6年生
- ・運動会
- ・児童会活動

#### <教員となって大変なこと><教員となってよかったこと>

・帰りが遅い	・長期休み
・キリがない仕事量	・先生方との関わり
・通知表所見	・地元への恩返し
・保護者会	・子供の成長
・研究授業	・新しい学び
・学校行事	

#### 教育現場で生かせること

- ・家庭科の知識・技能
- ・教育実習
- ・模擬授業
- ・他教科の知識・技能

#### 2 講話2「教科指導員、ミドルリーダーとして」

##### (1) 講師について

C氏は、公立小学校に勤務し、現在17年目。小学校5年生の担任兼学年主任をしている。教科領域等指導員として、他校の教員への指導や教育研究会での助言などを担当している。中学校で家庭科の授業を行うのが大好きで、中学校経験の方が長い。好奇心旺盛で人が大好きで、学校関係以外にもネットワークが広い。ジビエの授業実践をした際は、女性猟師と仲良くなり、正式に狩猟免許を取るほどである。

##### (2) 講話の概要について

C氏には、教員として働きながら、どのように育児を含む家庭生活を送っているのか、ミドルリーダーとしてどのような働き方をしているのか、産休・育休中に思っていたことなど、女性教員ならではの視点でライフスタイルやワーク・ライフ・バランスを楽しく語ってほしいと依頼した。

以下は、C氏作成のパワーポイントの抜粋である。「サンキューからシジューになる私が今思うこと」C氏の最初のスライドのタイトルだ。そして、最後のスライドには「たくさんの素敵な出会いにサンキュー！シジューの私がどうなるのか楽しみ」とあった。最後まで楽しく今までの自分の教員人生を語ってくれた。「私は人間が大好きだから、いろんな人と関わることが教員の仕事の魅力だと思います。子どもたちといろんなことに挑戦したり、いろんな人と出会えたり、私には教員が天職だと思います。でも、1年後、5年後、10年後、私が教員をやっているかどうかは絶対とは言えないし、わからない。何と言っても、3年で結婚してやめるつもりだったのに、17年も教員を続けてきたのだから…。この先もっとやりたいことがで

きたらそちらにいつてるかもしれないし。」と、最後まで自然体で話してくれた。

「今できることをすればいい。頼る先はあればあるほどいい。仕事、子育てだけでなく、自分の時間も確保する。」楽に生きるコツも伝授してくれた。

中学生～大学生時代 の私

- 家庭科は得意だった？
- 先生になりたいと思っていた？
- どんな未来を描いていた？
- 教育実習はどうだった？

サンキュー①  
教育実習で出会った先生、児童・生徒「やっぱり私は学校が好きなんだな」

新任～4年目 の私

- OO市の小規模小学校に赴任→20代一人！！  
独身一人！
- 3年生担任（単学級）→全部自分！！
- 音楽主任→全校合唱の指導！！
- 土曜日の若手向け勉強会参加一年間
- 合唱練習会参加→コンサートデビュー
- 「3年働いて結婚してやめる」はいつの間にか・・・

サンキュー②  
イキイキと働く女性の先生方・児童・保護者・地域の方・勉強会や合唱で出会った先生方みんなに育ててもらった

大規模中学校→新設中学校 での私

- 中学校への異動希望
- 1学年9クラスの大型校
- これまでの4年間は
- 中学校教員としての大変さ
- 新設校で3年担任、生徒会担当（学芸部長）
- 生徒に不人気だった家庭科の授業をいかに面白いと思ってもらえるか（家庭科楽しいよ！）

サンキュー③  
同世代の同僚の先生たちと楽しく働いた職員室3年間をともにした生徒一週間泣き続けた卒業式

結婚→出産→育児 を経験した私

- 子どもは絶対にほしかった
- 産んでみて、休んでみて、戻りた
- 産休・育休の間にできること
- 世の中知らないことや面白いこと
- 世の中楽しい大人やその道の
- 子どもたち一人一人がかけがえない存在だと気づく
- 子どもを信じて任せることの大切さに気づく
- 家庭科の学びって本当に生きる上で大切だと気づく

サンキュー④  
教育現場から離れたからこそその出会い・経験学校教育を広い視野で見ることの大切さ

職場復帰→研究発表→コロナ時代 の私

- 研究発表を経験できたからこそ！！
- 狩猟免許を取りました！！
- SDGsを学校全体で！豊田市小中連携研究発表会発表！
- 卒業式ができない？！やっばり卒業式！！
- ピンチをチャンスに！職場復帰
- 50点？30点？いや、150点でしょ！！
- 仕事と子育てと自分の時間！！
- 頼る先はあればあるほどいい！！

サンキュー⑤  
原田先生に出会うことができました♡家庭科って生きる力そのもの！！

### 3 講話3「中学校長として」

#### (1) 講師について

D氏は、38年間公立小中学校に勤務し、現在は公立中学校の校長である。愛知県や三河地区、地元の技術・家庭科部会でも指導的役割を担っている。中学校の女性校長だと聞くと、硬いイメージがあるが、D氏は、人を包み込む柔らかい雰囲気の方である。

#### (2) 講話の概要について

D氏には、「学校はブラックだ」という風潮の中で、現在の学校現場で行われている「働き方改革」の実際の状況を知らせ、安心して教員を志望する学生が増えるように話してほしいと依頼した。

以下は、D氏作成のパワーポイントの抜粋である。

「今、現場では・・・」というタイトルで講話が始まった。学校の様子を紹介する写真が終わると、労働基準法、給特法改正、変形労働時間制等、学生もニュースで聞いたことがあるであろう言葉が続いた。「私たちは、こういった法律に守られているし、守らなければいけないのです。この法律を守るために働き方改革が進んでいます。」と、きちんと根拠を示し、ある市や学校の具体的な働き方改革の例を説明してくれた。

「教員養成大学に来て良かったですね。人生はいろんなことがあります。教員免許を持っていれば、絶対どこかで役に立ちます。そして、学校現場は皆さんを待っています。ここにいる皆さんが、教員になってくれると嬉しいです。頑張ってくださいね。」と、激励の言葉でしめくくってくれた。今年度は、愛知県内で中学校技術・家庭科と小学校家庭科の東海・北陸地区研究大会がそれぞれ行われ、小学校家庭科は、県の研究大会も行われる。そのことにも触れてくれた。

●労働基準法第32条

(1)使用者は、労働者に、休憩時間を除き1週間について40時間を超えて、労働させてはならない。

(2)使用者は、一週間の各日については、労働者に、休憩時間を除き一日について8時間を超えて、労働させてはならない。

●給特法改正

令和元年度秋の臨時国会で審議・成立

働き方改革に関する条項は  
令和2年4月から施行

変形労働時間制の条項は  
令和3年4月から施行

- 「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」(文科省2019.1.25)  
→ 教師の時間外勤務は「多くても月45時間、年間360時間まで」
- 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」(中教審2019.1.25)
- 「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」(2019.3.18)

#### 〇〇市の働き方改革

- 小学校部活動 なし
- 中学校部活動 朝練なし 週2日休み  
平日90分以内 土曜は半日 月2回
- 学校閉庁日の導入 5日間は学校無人
- 電話の取次18:00~7:30なし
- 校務用PC導入  
通知表作成 要録 出席簿 成績処理
- 通知表の所見は3学期だけ
- その他

#### ある学校の働き方改革

- 朝の職員打合せ なし
- 職員会議 回数減 ペーパーレス化
- 校務分掌 効率よく働ける工夫
- 校務用CPの積極的な利用
- 学年会や生徒指導部会はコマに入れる
- 生徒会執行部任期を1年間に延長
- その他

## 24時間教員であれ

↓  
ライフワークバランス  
ウェルビーイング  
イクメンサポート

**教員免許は身を助ける**

#### 4 学生の感想

##### (1) 1年生(参加者2名)

・私は1年生で本学に来て約4か月程しか経っていないので「教師になる」という目標がまだ漠然とあるだけで、実習も経験しておらず、将来(数年後)本当に教師として働くことができるのか不安だった。そのうえ、教職はブラックであるという印象が世間的に浸透しており、自分にそんな仕事が務まるのかも不安だった。しかし、今回のキャリア形成研修講座を受講し、具体的に先輩方の経験談を聞くことができ、教職のやりがいについて知ることができ、教師を志すモチベーションがとても高まった。具体的な働き方改革の

事例を知り、教職がブラックという印象がだいぶ変わり、教員にとって働きやすく、やりがいを感じやすくなると思った。今回、貴重な話を聞くことができ良かった。教師になることを目指してこれからたくさんの方に挑戦し、いろいろな経験を積極的にしていきたいと思う。

##### (2) 2年生(参加者11人)

・教員を志して愛知教育大学に入学し、大学で様々なことを学んでいるが、実際私は教員に向いていないのではないかと思う時があり、将来について不安を抱えているタイミングでの今回のキャリア形成研修講座であった。様々なキャリア段階の現職の先生方のお話を聞いて、将来についてしっかりと考えることはとても大切であるけれど、それ以上に自分がどうしたいのかどんな姿を望むのかについて知ることが大切であると感じた。また、教員も子どもたちと同じように新しいものにたくさん触れて子どもたちに刺激を受け、そして子どもたちにも刺激を与えられながら共に成長していく教員になりたいなど強く思った。大学2年生にしてキャリアについて考えるととても貴重で有意義な時間であった。今日の講座を受けて私が感じたことを忘れずに今後生活していきたいと思う。

・3名の講師の先生方のお話は、それぞれ年齢も経験も立場も異なり、まったく違う内容でかつ普段はなかなか聞くことができないようなことだったので、すごく良い機会になったと思う。B先生は、教員採用試験に向けての準備や新任で学校に勤務を始めてからの心構えについて知ることができた。年齢が近いこともあって自分事のように聞くことができた。C先生のお話は、教師としての生活だけでなく、結婚・出産とその後のことまで聞くことができた。将来子どもが欲しいと思っている私にとって仕事と両立できるのだと分かって安心することができるお話だった。D先生は、昨今言われている「教員はブラックなのか」という問題について、校長という立場から具体的な働き方改革についてお話していただき、教員の働き方は変わりつつあるのだということを知ることができた。私は教員志望なので、今回のお話を忘れずにこれからも頑張って勉強していきたいと思う。

##### (3) 3年生(参加者17名)

・わからないことは人に聞く、自分の軸を決めて関わり信頼関係をつくるなどの言葉が参考になった。C先生の話から自分のキャリアのために視野を広く持って生活したいと思った。私は教員志望ではないが、私にも生かせるポイントがたくさんあり、勉強になった。

・自分の将来を深く考える機会になった。教員はブラックというイメージがついていて、小中学校の先生はとにかく大変で休みがないと思っていた。でも、やりがいがあるって休みもとれるし、楽しいという話を聞いて、悪い面だけではないなと思った。今までいろんな

先輩や教師をしている人の話を聞けば聞くほど、自分になりたい将来の自分が見えなくなってどうしようと思っていたが、小中学校の教師になることも視野に入れて再度進路を考えようと思った。

・3人とも教員がブラックなのかという点について触れていた。私はB先生のように、やりたいことやるべきことを時間の許す限りやってしまうタイプなので、きっと要領をつかむまでの数年間はとても大変で忙しいだろうなと思った。でも、時間をうまく使えば6時に帰宅可能であり、休みもきちんととれると聞き、改めてやりがいのある教員になりたいと感じた。

・教員採用試験の勉強をいつからすればよいのか悩んでいたが、教育実習後の11月から少しずつ始めたらいよいよという意見が聞けて少し不安が薄まった気がする。まずは、教育実習を頑張ろうと思った。

・中学校の家庭科教員を目指しているが、家庭科が特に得意でもなく、教えるスキルが備わっているわけでもないため、不安だった。しかし、今日の講話で世の中にはプロが多くいるので自分が完璧でなくてもその人たちに頼っても良いと聞き、少し不安が減った。

・キャリアという言葉を自分の中で考えれば考えるほど迷いがある現状だ。B先生の「こだわればこだわるほどできるのが教師」という言葉が心に残った。自分の性格や特性を考えて自分に正直になってみたい。

・教材や指導案の書き方などこれまでにたくさん学んできたが、これらが教員になった時どのようにいかすことができるのか知ることができた。

・どの方も生き生きとしていて教師という仕事は良いところがたくさんあるんだと感じた。大変なこともあるけれど、その子どもたちの成長を感じたり、ほかの職業では感じることでできないやりがいを感じることができる。産休・育休をまるっと3年とることができたり育児短時間勤務ができたりと、自分が想像していたより自由に働けるんだなと思った。自分の知らなかったことを知ることができ、有意義な時間だった。

・C先生の「できないことがあって当たり前」という話に勇気づけられた。今、私は教員に本当に向いているのだろうか不安になることがあるが、もっと気楽に周りから学び吸収しようとする姿勢が大切だとわかった。

#### (4) 4年生(参加者3名)

・教採二次前で不安な気持ちいっぱいの中、改めて小学校教員を目指して頑張ろうと思えた。通知表の作成や終わりが無い仕事等大変だという不安材料はあるものの、それ以上に子どもの成長に携わり、やりがいのある教員はとても魅力的で、何より講師の先生たちが楽しく幸せそうな雰囲気であることが印象的だった。特にC先生は、私の理想とするキャリアであったのでとても勉強になった。教員だから何もかもできないといけないという考えにとらわれることなく、頼れると

ころは頼り、自分を大切にするというスタンスが感じられ、C先生のような教師になりたいと思った。

・教員採用試験に向けてのやる気につながり、教師という職業の魅力ややりがいを改めて強く感じるができる良い機会となった。どの先生も子どもの姿を楽しそうに話される様子を見て、感じる事が多くあった。家庭科の良さについて自分の考えをもっと固めたり、刺激を受けた。私も教師となり、人として成長していきたいと思う。今日は参加できて良かった。

・キャリアの異なる先生方から今までの考えが深まるようなお話が聴けてとても有意義だった。リアルな教育現場で感じたことを知ること、私はやっぱり教師になりたいと思った。私が教育実習や学校ボランティア等で子どもとの関わりの中で起こったこと、感じたことと講座の内容とを紐づけることができ、二次の面接は、より深みのあるものになると思う。自分の世界をこうして広げていくことは一歩踏み出す前は意味があるのか考えてしまいがちだが、どこにでも学びや気づきが転がっているのだと思った。私は私らしく歩んでいいのだと自信をもてた。

### Ⅲ 3年生教員採用試験対策講座①

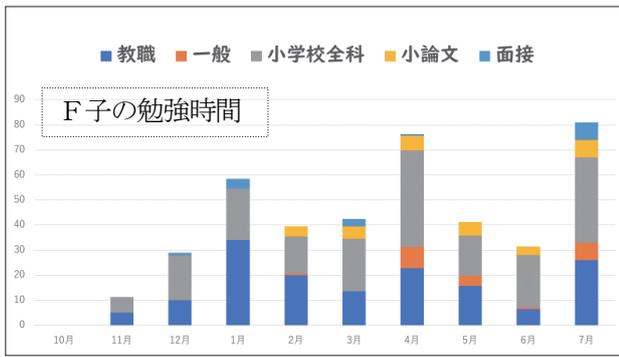
#### 1 講師と概要

後期教育実習事前指導の冒頭、名古屋市教員採用試験二次試験を翌日に控えた4年生E子に「なぜ教師になりたいと思ったか。それはいつか。そして、そのためにいつ何をしたか」を話してもらった。E子は、入学時から教育実習に行くまで全く教員になるつもりはなかった。しかし、教育実習で教員のやりがいと面白さを感じ、教育実習によって進路を変えたのだった。キャリア支援センターにあしげく通い、仲間と一緒に何度も面接練習を繰り返し、どうどうと話すことができるようになっていた。「私は、教育実習に行つて教師になろうと思いましたが、まだ教員になろうか迷っている人は、実習後に決めても全然遅くありません。教採対策も11月からでも大丈夫です。皆さん、実習を頑張ってください。」教育実習に行く前にE子のお話を聞かせることは、3年生にとって、教育実習の目的と教採対策は実習後でも大丈夫という安心感を与えることができたようだった。

### Ⅳ 3年生教員採用試験対策講座②

#### 1 体験談1 愛知県小学校教員(F子)

F子は、部活動やサークル活動はしておらず、教員採用試験対策の情報は、友達、キャリア支援センターと地元教育委員会主催の面接練習会の場であった。ハートフル活動として、中学校の不登校児に寄り添うボランティアをしていた。F子は、パワーポイントを作成し、丁寧に説明してくれた。次のグラフは、月ごとのF子の勉強時間のスライドである。



## 2 体験談2 名古屋市小学校教員 (E子)

前回は話してもらったが、今回は具体的な教員採用試験体験談を話してもらった。E子は小論文が苦手なキャリア支援センターに何度も通い、何度も書いた。その経験から「テーマは違うが、結局言いたいことは子供の自己肯定感を上げる、コミュニケーション能力を育成することの話などにもっていくことができるため、毎回違うことを書いて練習する必要はないと思う。いろいろな人の論文を見ると良い。」と話した。  
 <その他のアドバイス>

- ・願書に書いたことは追質問されるため、具体例を加えて説明できるようにする
- ・自分の強みとなるエピソードをもっておくと良い。
- ・二次試験はとにかくいい印象を持たれるような雰囲気作りが大事

## 3 体験談3 愛知県中学校教員 (G子)

G子は初等課程在籍であるが、3年後期に小学校に教育実習に行った際、多数の教科指導が煩雑で、大好きな家庭科の授業だけをやればよい中学校家庭科教員を目指すようになった。まる覚えするのではなく、内容によっては、まったくやらずに最初から捨てるのも対策だと言っていた。

<アドバイス>

- ・願書に書く志望の理由は、いじめ等の暗い理由より明るい理由 (とにかく家庭科が好きとか) の方が、面接のときに明るい印象をもたれて良い
- ・文学史や教職教養は、アプリやYouTube を上手に活用すると良い

## 4 体験談4 愛知県中学校教員 (H子)

H子は中学校課程で中学校教員を目指した。H子は、具体的な試験内容と勉強法をつたえてくれた。

<アドバイス>

- ・学習指導要領小中高特別支援の総則と各教科の目標は必須
- ・憲法は10~30、教育基本法は全部覚える
- ・世界文学史は毎年一問出るが、最初から捨てた
- ・勉強方法としては、まずは過去問を解いて傾向を把握する

- ・憲法などの法律は耳で覚える (電車の中で聞いた)
- ・教採ブログがおすすめ
- ・家庭科は、民族衣装、食中毒、中華料理
- ・小論文は課題に対してどう対処するか述べるもの理想の教師像や子ども像、どんな学級にしたいのかなど、自分が教師になった時にこうありたいという考えをもっていないと書けない。面接でも聞いてくることだから、小論文対策=面接対策となる

## 5 体験談5 公務員 (I子)

I子は、入学時は教員志望であったが、教育実習後教員になるのはやめ、公務員志望に変更した。最初は、市役所志望であったが、市民の対応をしなくてよい公共機関の存在を知り、そこを第一志望とした。

計画の段階では、教員採用試験のみにする予定だったが、今年度の3年生は公務員志望が多いと聞き、公務員志望の体験談も話してもらうことにした。

<アドバイス>

- ・受験の日程をうまく組み合わせることが大切  
 受験先 市役所  
 (刈谷、岡崎、日進、みよし、尾張旭)  
 国立大学法人  
 (愛知教育大学、名古屋大学)  
 名古屋港管理組合

- ・SPI などの方式もうまく組み合わせると良い
- ・ESは、早めにとりかかる  
 ※自己PR、ガクチカ、強みは400字くらい書く
- ・気になる自治体のインターン、説明会は参加する
- ・自治体ごとに力を入れていることは違うので、いくつかの分野に興味をもっておくと良い
- ・キャリア支援センターとハローワークを活用

## V アンケート結果について (3年生 33人)

### 1 教育実習に行く前から教員志望である



### 2 教育実習後、教員志望である



### 3 現在考えている卒業後の進路



### 4 卒業後の進路のために行っていることは



### 5 先輩の体験談は参考になったか



### 6 先輩の体験談を聞いた感想

- ・教職を志望するにしても、公務員を志望するにしても、いずれもどのようなことから始めるべきなのかが分からなかったが、これから何をしていけば良いか見えた。もっとキャリア支を積極的に活用したり、色々な人から話を聞いたりしながら情報を集めていきたい。
- ・中学校を受けたいけれど、倍率高いし、一次もいっぱい点取らなきゃだしと思い、小学校の教採を受けようかなと思っていたが、実際に初等から中学校を受けた先輩の話を聞いてみて中学校を受けようと思った。
- ・過去問をたくさん解き、傾向を掴むことの重要性を改めて感じた。面接の際、笑顔と声のトーンが大切であると分かったので、普段から人前で話すときに意識していきたい。
- ・一次試験の対策について何から始めたらよいのか迷っており、焦りばかりが募っていたが、今回先輩方のお話を聞いて、まずは過去問を解いてみて傾向を分析したり、今の自分の実力や苦手について把握したりするところから計画的に始めていきたいと思った。
- ・YouTube やアプリを活用して対策しているのを見て視野が広がった。自分の中で軸をもっておくことは自分の就職活動の中でも生かしていけると思った。

### 7 先輩への質問

- ・教採の勉強で一番時間をかけるべき科目はなにか
  - ・面接で聞かれて困ってしまったときにどのように対応するように心がけたのか
  - ・どのようにハローワークを活用したか
  - ・小論文の対策はいつ頃から行ったか
  - ・教職教養はセサミノートを使った方がよいか
  - ・名古屋市の模擬指導がどのように行われるのか、具体的に知りたい
  - ・中学校家庭科で全国の過去問を解いて効果的か
  - ・一般教養と小学校全科はどうやって勉強したか
  - ・公務員関係の質問 (多数)
- 教員採用試験についての質問事項については、メモで答えてもらった。公務員関係の質問が多岐にわたっているため、I子に依頼したところ、メモを書くより直接話した方が良いという返事だったので、後日、質問の場を設定した。

### V まとめ

次に紹介するのは、全学年合同キャリア形成研修講座に参加した2名の1年生のうちのもう一人の学生の感想である。

- ・キャリア形成研修講座に参加してキャリアに関するはっきりとしたイメージをもてました。教職について楽しさや苦勞を知ることができて良かった。黄金の3日間という言葉があることを初めて知った。人は、第一印象が大切と言われていることが学級経営でもいえるのだなと思った。教員として学校にすべての軸を置くのではなく、プライベートとのバランスも大切にして、様々な場所で多くの人と関わることで、より良いキャリアを積むことができると改めて理解した。将来私がどんな選択をするかまだ分かりませんが、人生設計を考えてみたり、自分に何ができるのか、教職の魅力とは何かを考え続けたい。方向性が決まっていないうちにキャリアに関する様々な話が聴けて良かった。

大学生活に慣れた前期が終わった頃に、卒業後の進路だけでなく、人生設計を考える場を設定することは後期からの授業に取り組む意義、目的がはっきりとしたその後の学修や種々の体験・実習活動へのモチベーションが上がるのではないかと考える。また、2年生以上の学生の感想を見ると、同じ話を聞いてもそれぞれの状況により受け止め方が違うが、学びや感じるころはなにかしらあったようだ。「学校はブラックだと思っていたが、働き改革が進んで改善されている」「大変なこともあるがやりがいもある」現場で働く3人の先輩、就職活動をやりぬいた先輩たちの生き生きと話す姿に直接触れたからこそ、実感できたと思う。意図的、計画的にキャリア形成を支援する場を設定することは、現在の学生には必要なことである。今年度は、希望者という形で行ったが、来年度以降は全員参加を原則として行っていきたい。